

Decent Work Labo × PUUKER

Vision Note_{ver.1}



2024



これまで実現されてこなかった様々なアイデアを
プロジェクトという形にし、事例づくりや研究に取り組み
新たな道を切り拓いていく ディーセントワーク・ラボ

ディーセントワーク・ラボが立ち上げたプロジェクトを
事業という形で持続可能なものに変え
社会に展開していく プーカー

この2つの組織が
実現したいと考える社会や取り組みを知り
応援したい、仲間になりたいと思ってくれる人がいたら
これ以上の喜びはありません

Contents

Our vision P 3

私たちのビジョン P 3

ビジョン実現において大切な
「個」と「コミュニティ」のあり方 P 5

私たちの戦略 P 7

Projects P 9

実現したい社会 P13

代表インタビュー
「実現したい社会に向かって」 P15

すべての人の

ディーセント・ワーク※

ディーセント・ロールの実現



(※)ディーセント・ワーク:日本語で「働きがいのある人間らしい仕事」のこと。
ただ働くだけでなく、生活の充実や豊かさも含めたもの。



これは私たちのビジョンです。

具体的には、一人ひとりに「役割」があり、

その「役割」を本人も周りも認識できる環境づくりを目指しています。

ここでいう「役割」とは、対価として報酬が得られるような、

仕事における「役割」だけを意味するものではありません。

だれかの幸せや喜びに関わったり、ありがとうと言われたり、

小さなことだとしてもだれかの役に立ったり。

一人ひとりの「役割」が大切に認識され、それが生活を営むことにもつながる。

そういった社会の実現に向けた活動を日々行っています。

特に、働く環境が十分に整っていない障がいのある人の「役割」や「仕事」を、

福祉の分野を越えたコラボレーションの力によってつくり、その活動を通して、

すべての人の「役割」や「働く」を見つめていきたいと考えています。

ビジョン実現において大切な 「個」と「コミュニティ」のあり方

ディーセント・ワーク、ディーセント・ロールの実現において、私たちは「個」と「コミュニティ」のあり方が重要と考えています。理想的には、一人ひとりが「自律した個」として「成熟したコミュニティ」に属し、それらが相互作用的にポジティブな影響を与え合い、持続可能な状態であることです。しかし、どんなに想いを持っていたとしても、それぞれが単独でただがむしゃらに走るだけでは、途中で力尽きてしまったり、無理をし続けた結果、どこに向かうべきかわからなくなる、といった状態につながる恐れがあります。そういったときに、成熟したコミュニティがあると一人ひとりが、強みや能力を発揮し、役割をきちんと果たそうと成長し続けます。そして、実現したい社会への長い道のりを、仲間と共に進み続けることができると考えています。



自律した個

自律した個とは、自らの人生を自分で選択し、決めたことに責任を持てる人(個)です。全てを自らできる人という意味ではなく、必要なサポートや応援を受けながら、自分の人生をハンドリングできる人という意味です。そのために大切なのは、得意を伸ばし、時には苦手にもチャレンジしてみること。自分自身をよく理解し、どこから周囲に頼るべきか、認識していることです。そして個は、所属するコミュニティ(組織)に、苦手や弱みを安心して伝えることができ、自分に必要なサポートをお願いすることが大切だと考えます。



自律した個は、成熟したコミュニティの中で能力開発の機会を提供される。

成熟したコミュニティは、自律した個が集うことで組織力や価値観の広がりが強化される。

成熟したコミュニティ

成熟したコミュニティとは、自律した個を育むための場所(コミュニティ)です。企業や団体のような目的意識を持った組織だけでなく、同じ考えや価値観を持つ人の集まりも含まれます。コミュニティに属する一人ひとりが互いに認め合い、時に刺激し合い、成長意欲が喚起される。コミュニティという環境があるからこそ、個が成長し続け、コミュニティも成熟する。その過程において、心理的安全が守られる関係性と、全員が様々なことに挑戦したり、成功や失敗をしたりする機会を公平に得られる場づくりを目指すことが大切だと考えます。

私たちの戦略

ビジョン実現における私たちの役割は “チェンジ・エージェント”

チェンジ・エージェントとは、社会に変革を起こしていく仕掛け人のこと。人々や他分野を繋ぎ、人や組織が本来持つ強みを発揮できる社会の実現に取り組みながら、自らもディーセント・ワーク、ディーセント・ロールを体現するモデルになることを目指しています。

私たちが持つ4つの顔

私たちには4つの強みがあります。1つの事業の中でも、フェーズや解決したい課題に応じて複数の顔を持ち合わせ、より本質的な課題解決を目指しています。



ソーシャルワーカー

一人ひとりの強みに着目。
強みを活かした課題解決やより良い環境づくりに取り組みます。



エンターテイナー

遊び心を大切にしながら、だれもが楽しめるコンテンツで
私たちのビジョンを伝え、共感のうずを広げます。



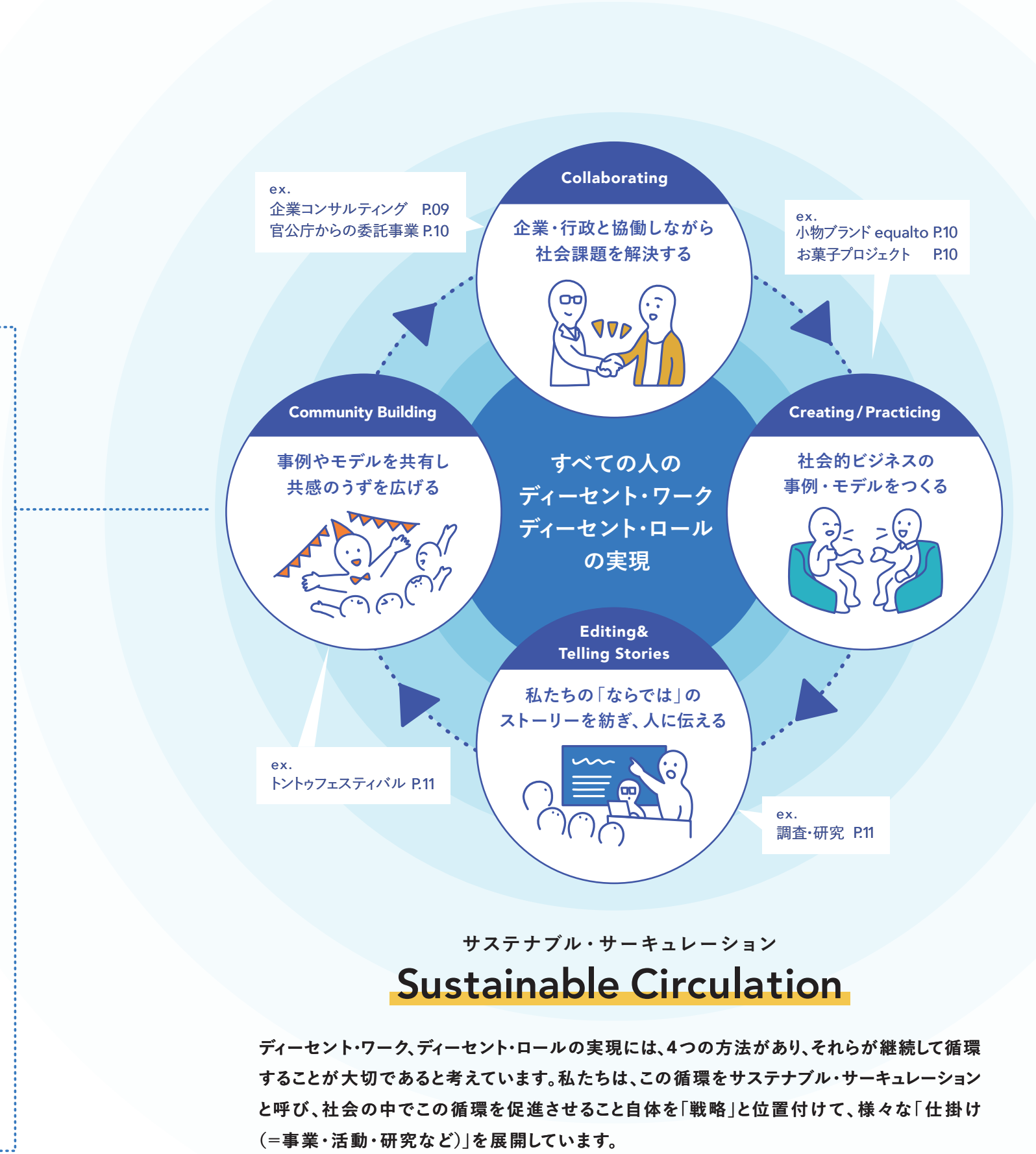
コンサルタント

障がい者雇用をきっかけに、
組織に変革を起こし、だれもが輝ける職場環境を共につくります。



研究者

取り組み事例を研究し、知見としてまとめ、
学会発表や講演などを通して社会へ発信していきます。



私たちの取り組み

サステナブル・サーキュレーションを社会の中で促進させていくために
私たちは様々な取り組みをしています。

ソーシャルワーカー、エンターテイナー、コンサルタント、研究者といった
4つの顔を持つ私たちだからこそ、実現可能な事業を紹介します。

企業コンサルティング

2017年始動



企業の障がい者雇用の採用前から定着までをトータルサポート。障がいのある人が戦力として会社の役に立っていると実感できる、働きがいのあるポジティブな障がい者雇用の実現を目指して伴走します。

私たちが一緒にさせていただく企業は、
国籍や業種もさまざま、多様な文化・風土をお持ちです。
それらをふまえて、その企業らしい雇用のあり方を
一緒に考え、実現まで伴走するパートナーでありたいです！

プロジェクト担当 A.T

沖縄バナラプロジェクト

2019年始動

沖縄にある自然栽培にこだわった野菜づくりを行う福祉事業所と共に取り組む、まちおこし×農業プロジェクト。国内で流通するほぼ全量を海外からの輸入に頼るバナラの国産化を、プロジェクトの目標としています。**2024年には、バナラキュアリング技術の特許を取得**しました。障がい者雇用を通して、沖縄の貧困問題を始めた様々なSDGsにつながる取り組みを目指し活動しています。

大自然の中で育てた最高品質のバナラ。人にも環境にも優しい農業を通じ、障がいの有無にかかわらず、携わるすべての人が、ありのまま笑顔になれる。そんなコミュニティをつくってみたいです。

プロジェクト担当 N.N



官公庁からの委託事業

2009年始動（前身の団体も含む）



官公庁から委託を受け、ニーズや課題に対応したモデル事業を官公庁と共に作り出しています。福祉事業所(就労継続支援B型事業所)を対象としたコンサルティング事業では、工賃向上を目的とし**3年間で18事業所**の支援を実施しました。また、デジタル技術を活用し、重度障がい者の就労の在り方を検証するモデル事業などにも取り組んでいます。その他、小規模でのコンサルを含めると、これまで**100事業所以上への支援**を行ってきました。

重度の障がいのある人が働ける環境や仕組みを整えることは、
全ての人の働きやすさにつながると 생각합니다。当事者意識を持ち、
新しい働き方や社会参加の方法を探ってまいります。

プロジェクト担当 F.U

お菓子プロジェクト

2009年始動（前身の団体も含む）

福祉事業所とパティシエのコラボにより、「おいしい!」お菓子作りを実現。これまでに**30事業所70種類以上のお菓子をプロデュース**。一つひとつ丁寧に作られる質の高いお菓子により、障がいのある人の働きがいと工賃の向上を目指します。手に取ったお菓子を通して、作り手について知るきっかけを作ります。こうしたお菓子を、社員のおやつとして企業に販売・設置するプロジェクトでは、**4000個以上のお菓子を納品**しました。

障がいのある人の丁寧な手仕事が、パティシエとのコラボによって、
美味しいお菓子となって人とつながる。美味しい体験を通して、
障がいのある人の世界を、知ってもらい一歩になると嬉しいです。

プロジェクト担当 C.M



equalto

2014年始動

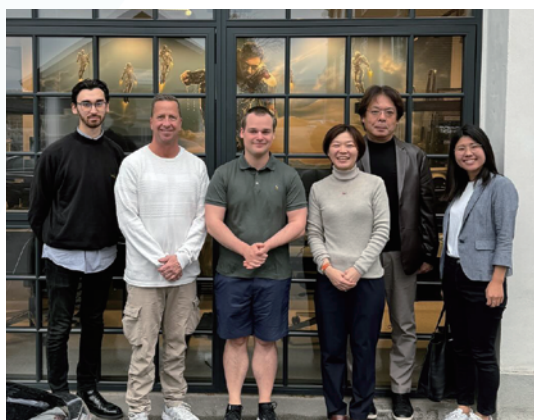


福祉事業所の丁寧で細やかな手仕事とデザインの力が混ざり合うことによって、高い付加価値が生み出される小物ブランド。アクセント株式会社、アッシュコンセプト株式会社と共に、ものづくりを通して障がいのある人の働きがいと経済的自立を目指して活動を続けています。これまで**約19事業所と27点の商品を開発・販売**してきました。

暮らしに溶け込むあたたかい商品には、
ものづくりに携わるたくさんの方の想いが込められています。
equalto をきっかけに、障がいのある人のものづくりの世界に
興味を持つ方が増えてくださったら嬉しいです。

プロジェクト担当 N.N

調査・研究



国内外で、「働きがい」や「障がいのある人の『働く』」に関する調査・研究に取り組んでいます。得られた知見はセミナーや書籍、冊子という形で発信しています。これまで**4冊の冊子を発行、国際学会での発表は5回以上**取り組みました。時に、他分野の専門家とコラボして企画をすることもあります。あらゆる切り口から考える「ディーセント・ワーク」。福祉の分野を越えた仲間や共感が生まれることを願っています。

日々の取り組みを整理し、データと根拠に基づいて新しい知見を得ることを目指しています。私たちの知見がだれかの役に立ち、価値あるものと感じてもらえたら嬉しいです。

プロジェクト担当 H.O

トントウフェスティバル

2020年始動

"私らしさ"と"あなたらしさ"を感じながら、そのなかにある"ちがい"と"おなじ"を発見して、知って、体験できるフェスティバル。2021年に第1回目を開催し**2032年まで毎年続く継続的なプロジェクト**です。フィンランドの妖精トントウが暮らす、「互いの役割を認め合い、交わり合う社会」のようになるといいなという想いが実現できるよう、様々な仕掛けを作り出しています。



障がいの有無にかかわらず、いろんな人とつながり、混ざり合うことを体験できる素晴らしい機会になっています。多様な人々が、適材適所で活躍できる場がある。それは、みんなが安心して暮らせる世界につながっている。未来に期待が膨らむフェスです。

プロジェクト担当 K.H

その他の取り組み

Decent Work マーク (仮)

実践や研究で得た知見から、全国のディーセント・ワークを志す組織・チームを見つけ、社会に広めていくプロジェクト。分野は問わず、幅広い企業・組織を対象としています。

プロジェクト Z

2017年始動

「慶應義塾大学 商学部 牛島ゼミ」「長野大学」「美大生」の有志の学生のコラボによる、障がいのある人のものづくりや、ディーセント・ワークを社会に広く伝えるためのプロジェクトです。近年では、トントウフェスティバルの一部の企画や実施をしています。

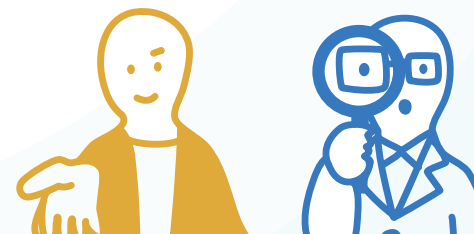
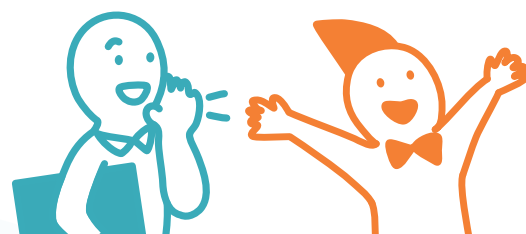
PR

ディーセントワーク・ラボの考え方や取り組みについて、HPやInstagram、Facebook、YouTube、noteなど、あらゆる媒体を活用して発信しています。福祉というあまり知られていない領域のイメージを変え、だれもが興味を持って「知りたい!」と思えるような、見る人がワクワクとした気持ちになる仕組みづくりに取り組んでいます。

障がいのある人に対するトレーニングセンター (仮)

他者との対話と協働を通じて仕事で価値を発揮するまでのストーリーを重視した、次世代のトレーニングセンター。「自分らしさを発揮しながらチームの成果に貢献できている」感覚を得るためのプログラムを、企業や大学と連携して創出します。

このような取り組みを通して
私たちが目指す社会は ...



だれもが役割を持ち、
その役割を互いに認め合える社会



そういった社会、なんだかワクワクしませんか。

すべての人のディーセント・ワーク、ディーセント・ロールの実現に向かって

私たちは、これからも歩み続けます。



実現したい社会に向かって

スタッフが代表中尾に突撃インタビューし、活動の原点やビジョンへの想いを聞きました。



活動の原点

スタッフ 入社からもう5年が経過しました(笑)。ちょっとここで、改めて活動の原点について聞かせてください。

中尾 原点は、障がい者施設(就労継続支援B型事業所)で働く障がいのある人の低賃金に問題意識を持ったことです。当時は1人あたりの全国平均が月¥12,000程と、低い状況でした(現在は約¥16,000)。この状況を「なんとかしたい」と思い、どうしたら賃金を上げられるかを模索する日々が始まりました。

スタッフ 想いがきっかけなんですね。当時、中尾さんはどのような点に着目して、状況の改善に取り組まれたのですか？

中尾 施設に『福祉のプロ』はいても、『ものづくりのプロ』はおらず、商品は家庭的なものが多い。販路が広がらないなど、いくつか越えられない壁がありました。そこで、パティシエやデザイナーの方など、あらゆるプロの力をお借りして、障がいのある人のものづくりの特徴である『手作りの良さ』を活かしながら、質が高く、より良い商品の開発に取り組みました。

スタッフ 私たちが大切にしている、他分野へのアプローチや他分野との連携は、この時に始まったのですね。でも、どうやって他分野のプロとつながっていったのですか？

中尾 当初、協力してくださったパティシエの皆さんとは、直接会いに行き、想いをぶつけたのがご縁の始まりです。私たちの想いが届くと信じ、「伝えるしかない！」って必死でした。

スタッフ 直談判!ディーセントワーク・ラボっばいです。

中尾 活動を続ける中で、賃金上がるだけでなく、働く障がいのある人にも変化が起きてきたのは、私も予想外のことでした。施設を休みがちだった人が「自分がいないとこのお菓子は作れないから」と休まなくなったり、楽しそうに仕事に取り組む姿が増えたり、サポートが必要だった作業も、徐々にサポートが不要になっていきました。その成長や変化に職員のみなさんも驚かされていました。

スタッフ 工賃が上がるだけでなく、仕事の質が上がり、仕事に対する誇りとか楽しいという気持ちが生まれて、モチベーションや責任感だけでなく、生活の中にもポジティブな影響が出てきたんですね。

中尾 そう、私自身も障がいのある人の働くときの目の色が変わっていく様子や、楽しそうに働く姿を目の当たりにして、すごく嬉しかったです。そして、この変化の理由を考えた時に、私の恩師から『ディーセント・ワーク』にヒントがあるんじゃない?と教えていただき、そこで初めてディーセント・ワークという言葉を知りました。

ビジョンが実現した社会とは？

スタッフ 今回のビジョンノートでは、スタッフで話し合い、最後のページに『ビジョンが実現した社会』を表現しましたが、中尾さんにとって、ビジョンが実現した社会とはどのような社会だと思いますか？

中尾 『役割』があることが重要と考えます。それが社会という広い範囲の話だけでなく、地域やどこかのグループでもいい。まずは、その中で「自分はここにいていいんだ」と思えることです。そして、どんなことでも良いので、自分がその中で何かできているとか、役立っているという実感があることです。「あなたに会うと元気が出る」って言ってもらえとか、そういうこともいいと思います。

スタッフ なるほど。『ただそこにいる』だけではないってことですね。

中尾 最初は、『ただそこにいる』ということは大切だと思います。でも、その次がある。『役割』があると実感すること自体が自分にとっての小さな喜びであったり、幸せであるということまで落とし込むことができたなら、すごく理想的な、『役割』がある状態になると思います。

スタッフ その人それぞれに『役割』があり、互いが認め合っている状態。与えられた役割だけでなく、自分自身で新たな役割を担いたいと思ったときに、頑張ることを大事にし、周囲はその頑張る背中を後押しできるようなコミュニティでありたいですね。

ビジョンを体現することとは？

スタッフ 私たちスタッフの役割は、チェンジ・エージェントとして、まずは自らビジョンを体現することですが、今の自分ではできているだろうか?と振り返る時に思うのは、『『体現する』って何だろう?』ということです。

中尾 『体現する』って本当に難しいと思います。でもそれって、自分自身にとってすごく大切なことだから、ぜひスタッフ同士で話したり考えてみてもらえたらと思います。

スタッフ 確かに、みんなで話したら見えてくるものがあるかもしれませんね。ところで、中尾さんが『体現する』ことを大切にしはじめたきっかけって何かあるのですか？

中尾 そうですね、1つには絞れませんが(笑)、、、大学時代に『ソーシャルワーク』に出会ったことですかね。ソーシャルワークは、「すべての人に力がある」という考えが土台にあります。この考えに出会うまで、「一人ひとりが大切にされる必要がある」とか「だれもが尊重されるべき」とか聞いてはいたけど、色々なことがある中で、どこか「そんなの嘘だ」と思う自分がいました。でも、ソーシャルワークを学ぶ中で、「すべての人が大切に尊重されることが、当然のことなんだ」と心から思い、実践している人に出会いました。そして、それが学問として体系立っていることに心から感動したんです。

スタッフ 衝撃だったんですね。

中尾 そして、実際に教授の言葉や活動を直接見て肌で感じる中で『体現する』ということを知ったんです。「こんな社会にしたい」って掲げることと、実際に行動することの両方が必要だと気がつきました。でも、それって本当に難しい。最初は周囲から「そんなの無理だ」とネガティブな反応が多かったのですが、それでも目指したい社会へ進み続けると、その重要さや想いが広がり、周囲も「何とかしなきゃ」と思ってくれるようになり、少しずつ変化が起きていくんです。仲間を増やしながら社会のために実践し続ける人、まさに『体現する人』と出会ったのが大学でした。

スタッフ 私たちが『体現する』ことの重要性が、少しわかった気がしました。ただ、大きな目標を掲げていると、目の前の地道で小さな業務が、時になんのためのものかわからなくなり、辛くなる時があります。

中尾 そうですね。本気で取り組んでいるからこそ、そういう

時は必ずあると思います。でも、それは自分自身と向き合うチャンスなんです。目の前の業務が、何につながっているかをぜひ考えてみてください。自分のやっていることが、ビジョンにどうつながり、サステナブル・サーキュレーションのどの部分を担うのか。このビジョンノートがヒントになるのではないのでしょうか。

スタッフ 確かに、ビジョンから辿って、自分のやっていることとつながると何だかワクワクします。すぐにつながらない時もありますが、無理に進み続けるのではなく、一度立ち止まる。そして、そんな時にこのビジョンノートを活用してみる。スタッフにはもちろん、社外の方が読んだ時にも、どこか少しでも共感してくださったり、何らかのヒントとなれば、それ以上に嬉しいことはありません。

中尾 今言っていたように、「自分のやっていることがビジョンや目指す社会につながってワクワクする」。これは、モチベーションややりがいになるのはもちろんですが、かつて「こんな社会にしたい」と立ち上がった自分自身に応えることにもなります。自らの想いと向き合い、応えてあげる。これは、ビジョンを体現する上で欠かせないプロセスです。自分が今、何のためにやっているかわからなくなった時、「なぜ自分はこの活動をし始めたのか」に立ち返ると、何かヒントが得られるかもしれません。

インタビューを終えて

ビジョンを体現する難しさは、スタッフとしても日々感じます。ビジョンやニーズに沿った新しい事業が始まった時はワクワクする。だけど、いざ現場に出ると、細かな調整や思わぬ障壁があり、本当に地道な作業の繰り返しです。大きな目標にはみんなが共感してくれて嬉しいけど、足並み揃えて一緒に歩き出すのは意外と難しい。人の強みに着目したいからこそ、いくつも小さな違いに気がづくし、みんなを尊重したいという想いから二の足を踏んでしまうこともあります。でも、そんな時、ディーセントワーク・ラボやプーカーのスタッフと話をすると、自分たちが目指していたことを思い出させてくれます。今やっていることは、何のためにやっていたことなのか。辛いことがあっても、また頑張ろうと思える、モチベーションを上げてもらえる環境がある。自分にできることは本当に小さなことかもしれないけれど、まずは目の前にいる一人でも多くの人が、活き活き、ワクワクしながら過ごせる社会になるように、これからも歩み続けていきたいと思います。

(スタッフ:三浦・奥山・長濱・小林)

私たちの活動や思いを発信中！

HP

[https://
decentwork-lab.org/](https://decentwork-lab.org/)



Facebook

[https://www.facebook.
com/decentworklab](https://www.facebook.com/decentworklab)



Instagram

[https://www.instagram.
com/decent_work_labo](https://www.instagram.com/decent_work_labo)



NPO法人ディーセントワーク・ラボ & 株式会社プーカー ビジョンノート

2024年5月31日 初版発行

編集・発行 NPO法人ディーセントワーク・ラボ / 株式会社プーカー
〒145-0062 東京都大田区北千束3-28-9 VANフラッツ401
TEL 03-6451-7345 FAX 03-6451-7346

第1回 ビジョンノート製作委員会(三浦・奥山・長濱・小林)

本書を無断で複写・複製することを禁じます。
Copyright © 2024 Decent Work Labo & PUUKER All rights reserved

